

## 4. 代謝・内分泌疾患

### 文献

向野義人. 肥満の耳針療法-有効性及びその作用機序についての検討-. 全日本鍼灸学会雑誌 1981;31(1):67-74. JAC-RCT ver.1.4 study ID no.: \*8101/\*8301/\*8501

#### 1. 目的

肥満の耳針療法の効果の評価とその作用機序の評価

#### 2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

#### 3. セッティング

築港病院内科、三重、日本

#### 4. 参加者

18-45歳の肥満度 120%以上の単純性肥満の外来患者 50名 (18-45歳、平均年齢 32.2歳)。症候性肥満、糖尿病既往歴のある者あるいは治療中の者、空腹時血糖 110mg/dl を超える者は除外。

#### 5. 介入

Arm 1: 耳介の神門治療群 (25名)。皮内針で2週間治療。該当する場所へ皮内針を2本留置し、1週間毎に針を交換。

Arm 2: 耳介の肺治療群 (25名)。皮内針の留置部位以外は Arm1 と同様。

#### 6. 主なアウトカム評価項目

食餌摂取量、満腹感、空腹感の変化、空腹時血糖。血中の遊離脂肪酸、インスリン、ガストリン、セクレチン

#### 7. 主な結果

食餌摂取量の減少した症例の出現率は、Arm 1 が 56%、Arm 2 が 28% で有意な差 ( $P<0.05$ ) があった。空腹感の減少した症例は、Arm 1 で 36%、Arm 2 で 12% であり、有意差 ( $P<0.05$ ) が認められた。満腹感の亢進は、2.5 点以上の症例の出現率は Arm 1 で 24%、Arm 2 で 4% と有意差 ( $P<0.05$ ) があり、2.0 点以上はそれぞれ 52%、16% で有意差 ( $P<0.01$ ) があり、1.5 点以上はそれぞれ 64%、36% で有意差 ( $P<0.05$ ) を認めた。空腹時血糖、遊離脂肪酸、ガストリン、セクレチンには有意な変化を認めなかったが、インスリンのみ Arm 1 において有意に低下 ( $P<0.05$ ) した。

#### 8. 結論

肥満者の耳の耳甲介腔にある肺点に皮内針の留置は、満腹感を亢進させることで空腹感が減少させ、食餌摂取量を減少させることができ、血中インスリン値を低下させる。

#### 9. 鍼灸学的言及

皮内針の留置部位は神経解剖学的観点から選択され、インピーダンス測定により決定された。

#### 10. 論文中の安全性評価

記載なし。

#### 11. Abstractor のコメント

本研究は、耳針の肥満治療への効果の機序を科学的に究明した研究が少ない中、実際に医療機関を受診した単純性肥満患者において多角的に実施した、非常に興味深い臨床研究であり、対照群を設けている点も評価できる。空腹時血糖、遊離脂肪酸、インスリン、ガストリン、セクレチン、多くの評価項目を盛り込みすぎて結論のポイントが絞り込まれていない点が惜まれる。また、本実験は2重マスク化されていないので、偽針を用いた2重マスク化試験が望まれる。視床下部、耳甲介腔、膵臓の間に何らかの関係があり、その関係をつなぐものは自律神経系であるという推論がされているが、その解明は肥満治療や鍼灸医学にとって大きな飛躍となるので、今後の研究で実証されることを期待したい。

#### 12. Abstractor

岡田明子 2010.12.11